

平成30年度 短期目標・具体的施策・成果／取組指標(教科)

教科	短期(重点)目標	具体的方策	成果(数値)/取組(スケジュール)指標
国語	①家庭学習・授業を大切にすることを育てる。 ②進んで読書しようとする姿勢を引き出す。 ③生徒が自ら思考し、表現する授業を工夫する。	①家庭学習の習慣が定着するよう、適切な課題を課す。	①国語の家庭学習時間を毎日30分以上確保できたか。(学習時間調査で確認)
		②図書館と連携し、朝読書や読書感想文の提出など読書に親しむ機会を与える。	②読書感想文の提出状況 100%達成できたか。
		③授業の目標を明示し、生徒の活動も取り入れた展開を構成して、生徒が授業内容を振り返る機会を設け、わかりやすい授業を工夫する。	③授業評価アンケートで満足度80%以上を確保できたか。
地歴・公民	地域社会・国際社会で主体的に生きるために、基礎的な学力の定着を図り、社会的事象への興味関心や課題解決能力を高める。	①小テスト、課題提出(時事ノート等)を実施し、主体的に学習する態度を培う。	①得点率・提出率のアップを図る。(各90%以上を目指す)
		②受験に向けた対応力を高めるために、基礎学力の定着を図るとともに、授業進捗の確保に努める。	②シラバスの進捗指標の達成を図る。
		③生徒が主体的に授業に取り組めるよう対話的な学びも取り入れる等、授業の工夫を行う。	③AL型授業を学期に1回以上行う。
数学	①自学意識を高めさせる ②基礎基本を定着させる	①-1 授業で興味関心をもてるような工夫をする ①-2 コースに応じた課題を設定し、家庭学習を促す	学習時間を420(分/週)以上できたか(学習時間調査時)
		②-1 基礎基本事項を問う小テストを実施する ②-2 課題提出を徹底させる	課題提出率を90%以上になるようにできたか
理科	生徒の科学に関する興味・関心を高め、科学的リテラシーを育成する。	①実験・実習を活用した授業を行う。	レポートの提出状況が100%達成できたか。
		②ICT機器を活用した授業を積極的に取り入れる。	ICT機器を用いた授業を10回以上行ったか。
		③少人数によるグループワークを授業に積極的に取り入れる。	少人数によるグループワークを授業で10回以上行ったか。
体育	健康、安全に留意させ、運動やスポーツをすることの楽しさを味わい、生涯スポーツの基礎づくりを図る。	①準備運動やからだほぐし等の運動を重点的に取り組むよう、授業設定をする。	①授業での事故、けがの発生率を5%以内にする。
		②個々の能力にあった課題を設定して課題解決のための支援を行い、主体的に取り組めるような授業づくりをする。また、保健で行う授業と密な関わり合いを持たせた授業を展開する。	②単元ごとに重点項目を明確にし、個々の課題を確認する。体育的行事の目標の明確化を図る。
芸術	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。	①演奏・作品発表の機会を設けて、自己を表現する喜びを感じさせる。	①演奏・作品発表の機会を授業ごとに設ける。
		②様々なジャンルや国の芸術作品の鑑賞を取り入れ、自国の文化や諸外国の作品に触れることで、多文化尊重の姿勢を育てる。	②鑑賞教材の充実。対話型鑑賞を取り入れた授業展開の設定を行う。鑑賞シートの提出100%。
英語	積極的にコミュニケーションを図る態度を育成し、英語を用いて自分の考えを表現することができる力を養う。	①授業で言語活動を取り入れ、コミュニケーション能力を養う。	①1単元に1回はペアワークやグループワークを取り入れることができたか。
		②予習・復習を習慣づけ、課題提出を徹底させる。	②週学習時間目標(全学年420分以上)を達成できたか。
		③外部試験を積極的に受験するよう促す。	③年間15名以上が英検準2級、2級に合格したか。
家庭	学んだことを自らの生活の中に活かし、生活を豊かにすることができる。	①活動の場面を多く設定し、実践力を高める。	①年間10回以上は実習やグループワークを取り入れた授業を行う。
		②長期休業中に課題を実施し、レポートを提出する。	②レポート提出率90%以上を目指す。
情報	卒業後に必要となるパソコンの基本的操作を学んで身につける。	①Microsoft Officeを使用して基本から実践までの練習を行う。	①実技テスト。ペーパーテストで7割以上を目指す。
		②情報端末の安全な取り扱い方法を共有する。	②情報モラルのトラブル0%を目指す。
		③発表の機会を設けて表現力やプレゼンテーション能力を養う。	③発表を個人またはグループで実施する。